

# 平成30年住宅・土地統計調査結果の概要(北海道分)

## 1 総住宅数と総世帯数

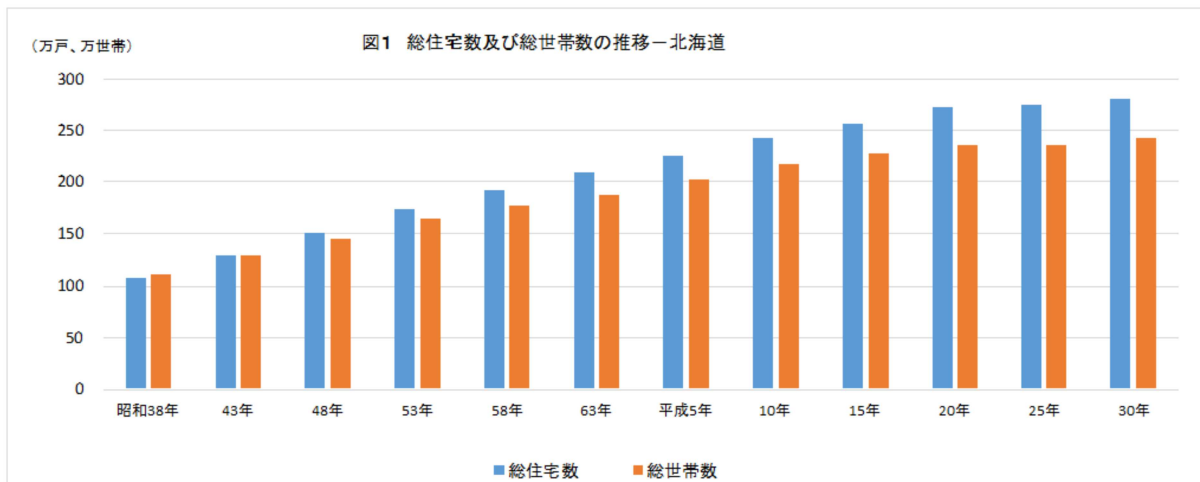
総世帯数は6万8,200世帯増加

平成30年10月1日現在における北海道の総住宅数は280万7,200戸、総世帯数は243万3,500世帯で、総住宅数が総世帯数を37万3,700上回っている。

前回の平成25年調査に比べ、総住宅数は6万600戸、2.2%増加、総世帯数は6万8,200世帯、2.9%増加している。

1世帯当たり住宅数は1.15戸で、平成25年とほぼ同数で推移している。

(統計表 表1)



## 2 居住世帯の有無

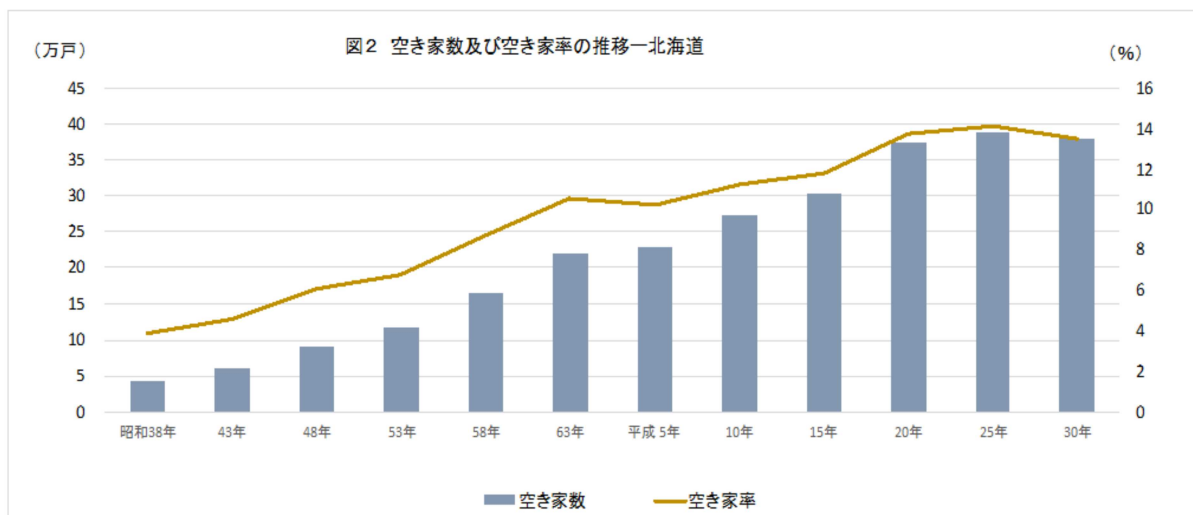
空き家率は0.6ポイント減少

総住宅数280万7,200戸のうち、居住世帯のある住宅(ふだん人が住んでいる住宅)の数は241万6,700戸で総住宅数の86.0%、「空き家」など居住世帯のない住宅は39万500戸で、13.9%となっている。

居住世帯のない住宅の大半を占める「空き家」は37万9,800戸と、平成25年に比べ8,400戸、2.2%減少しており、総住宅数に占める空き家数の割合(「空き家率」)は13.5%と、平成25年に比べ0.6ポイント減少している。

また、北海道の「空き家率」は、全国値(13.6%)を0.1ポイント下回っている。

(統計表 表2)



### 3 住宅の建て方

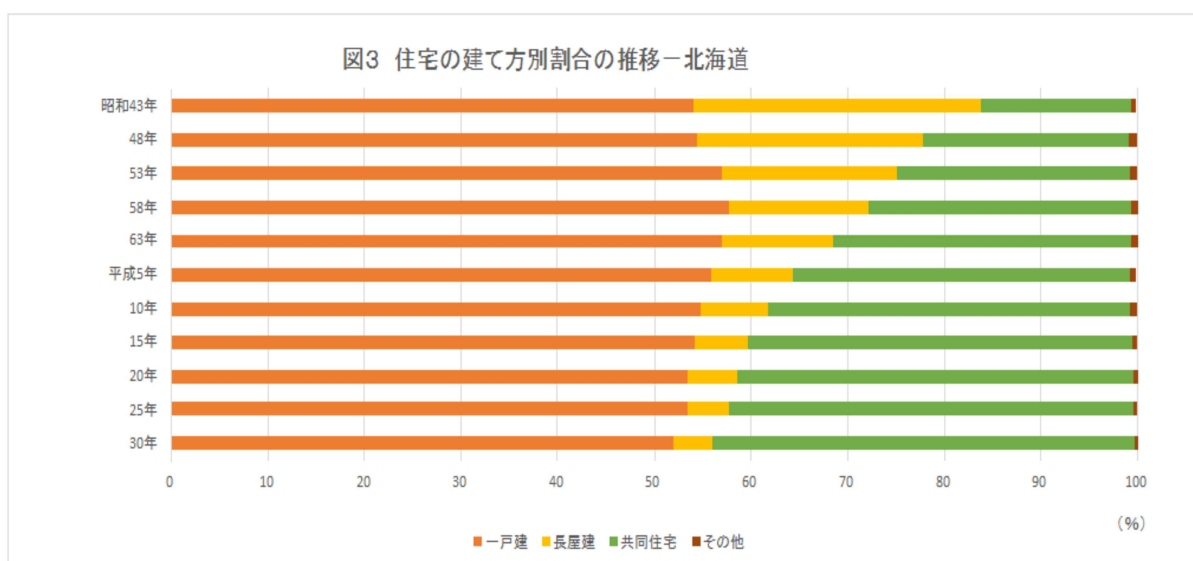
共同住宅数は7.4%増加  
長屋建数は5.4%減少

居住世帯のある住宅を建て方別にみると、「一戸建」が125万5,600戸で、居住世帯のある住宅の52.0%、「長屋建」が9万5,800戸で4.0%、「共同住宅」が105万8,000戸で43.8%、「その他」が7,400戸で0.3%を占めている。

平成25年に比べると、「一戸建」が2,900戸、0.2%増加、「長屋建」が5,500戸、5.4%減少、「共同住宅」は7万3,200戸、7.4%増加、「その他」が500戸、7.2%増加している。

住宅に占める割合では、「一戸建」が昭和58年をピークに低下傾向にあるのに対し、「共同住宅」は一貫して上昇しており、平成25年に比べ1.8ポイント上昇している。

(統計表 表3)



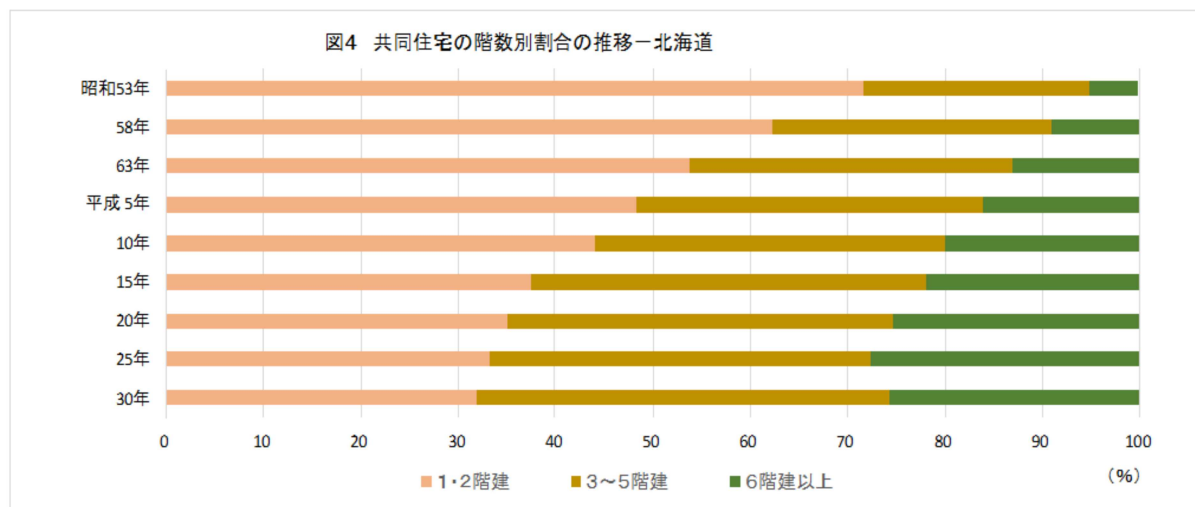
#### 4 共同住宅の階数

3～5階建て数は16.3%増加

共同住宅を階数別にみると、「1・2階建」が33万7,300戸で、共同住宅全体の31.9%、「3～5階建」が44万8,700戸で、42.4%、「6階建以上」が27万2,000戸で、25.7%となっている。

平成25年に比べると、「1・2階建」が1万200戸、3.1%増加、「3～5階建」が6万3,000戸、16.3%増加しており、「6階以上」は、ほぼ同数で推移している。

(統計表 表4)



#### 5 住宅の所有の関係

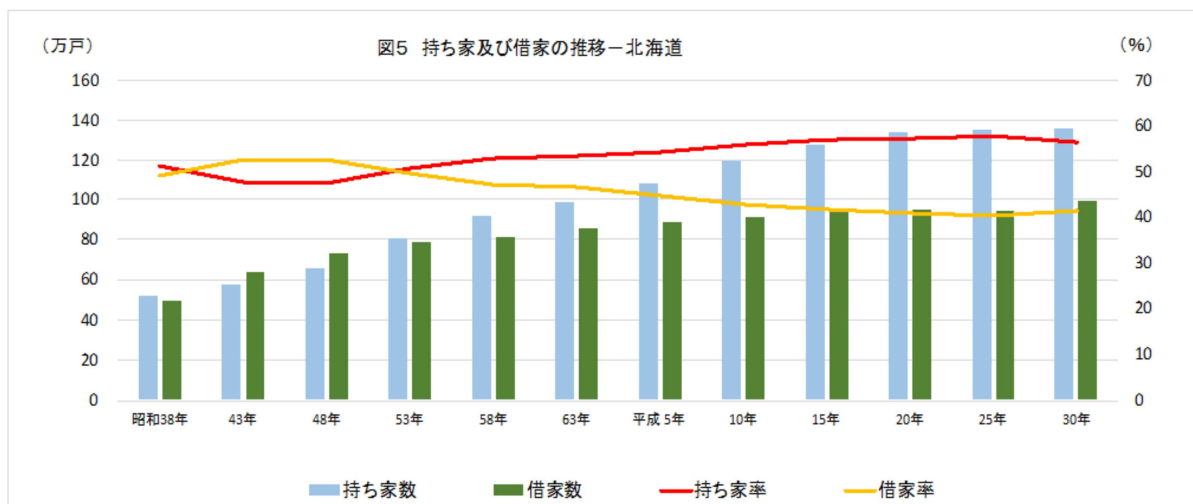
持ち家の割合は1.4ポイント減少

住宅を所有の関係別にみると、「持ち家」が135万9,400戸で、平成25年に比べ5,500戸、0.4%増加、「借家」は99万8,600戸で、5万2,700戸、5.6%増加している。

また、住宅全体に占める割合をみると、「持ち家」は56.3%（「持ち家住宅率」）で、平成25年に比べ1.4ポイント低下、「借家」は41.3%で、1.0ポイント上昇している。

北海道の「持ち家住宅率」は、全国値（61.2%）よりも4.9ポイント下回っている。

(統計表5)



## 6 住宅の規模

### 居住室数、居住室の畳数、延べ面積は共に減少

居住専用に建築された「専用住宅」の規模をみると、1住宅当たり居住室数は4.24室、居住室の畳数は33.14畳、延べ面積は90.16㎡となっており、平成25年に比べ、居住室数は0.16室、居住室の畳数は0.25畳、延べ面積は1.23㎡それぞれ減少している。

全国値に比べると、1住宅当たり居住室数で0.16室、延べ面積で1.9㎡それぞれ下回っているが、居住室の畳数では0.4畳上回っている。

(統計表 表6-1 表6-2 表6-3)

